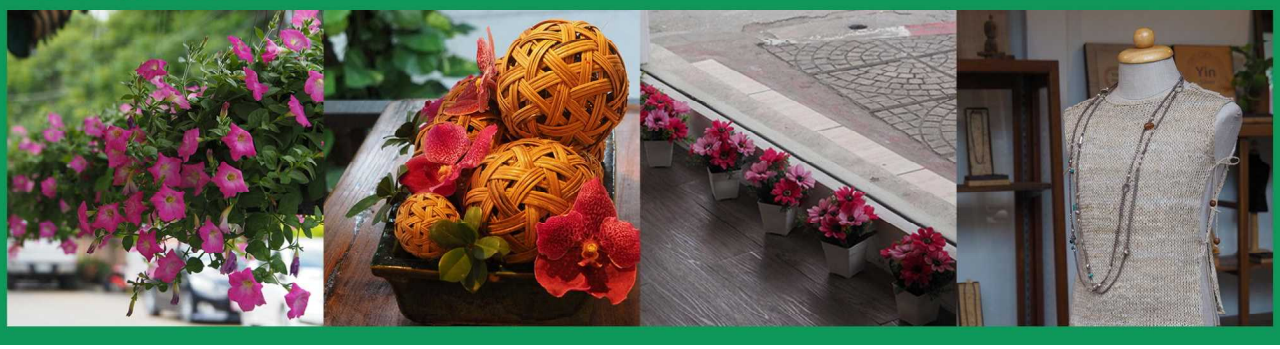
http://decfamily.p1.bindsite.jp/2014/

We 35R

No.426　14/11/04



如実に分かる数字

２週間ほど前、Ｓ台の模試担当の方と●●校舎の校長先生をお呼びして、夏休み中に実施された「Ｔ大実戦」（任意参加）の結果に関する分析会を行った。また、先週の金曜日には●●の模試担当の方をお呼びして、９月の終わりに実施したマーク模試（任意参加だが260名が受験）の分析会を行った。これは個人の状況ではなく、学年全体の状況を把握してこれからの指導に生かすことを目的にしたものであるから、ちょっと君たちのニーズとは異なる部分もあるし、君たちにしてみれば自分のことで精一杯だろうとは思うけれど、今の学年全体の状況を知ることも励みになると思うので、いくつかのポイントを紹介してみよう。これからの自分の勉強の参考にしてほしい。

＊

まず、国数英の仕上がり具合だが、トップ層（偏差値●以上）は昨年とまったく同じ状況、それに続く中間層が昨年よりも厚くなっている。これからは理社の勉強が中心になるだろうが、添削などを定期的に続ければ、記述力だけでなく、その科目の基礎学力も伸びるはずだから、トップ層の人は油断することなく、また、そこを目指す人も諦めずに国数英の学習時間を確保してほしい。具体的には、自分のペースで添削を受けながらセンターの過去問の演習を続ける、そして、何より大切なことは、授業を有効活用することである。予習が初見の問題に取り組むことに相当するわけだから、そこで抜けている部分を確認して、それを一つ一つつぶしていくことだ。

理社を加えた状況はというと、文系（5-8文系）はトップ層が昨年の２倍いる…という実感はあまりないのだが（笑）、数字の上ではそうなっているし、まだまだこれからの上昇が期待できる層も厚くなっている。地歴の仕上がり具合が、どの科目も例年に比べて早いのではないかという分析がなされた。

逆に、理系（5-7理系）は昨年に比べるとトップ層が少ない状況で、中間層はほぼ同じくらいというのが現状だ。難化した理科の準備が追いついていないのではないかという分析であったが、逆にいうと、これからの努力次第ということでもあろう。理系の諸君は協力しあって、理科の伸長に取り組もう。

＊

東大や医学部（医科歯科、筑波など）を受ける人は、とりあえず●●点がセンターの目標（京大・一橋は学部により－●～－●点）。この数字はどういうことかというと、昨年までの実績で、センター●●点の人は約80％合格、●●点だと約60％、●●点だと約40％ということで、つまり、合否が半々（二次逆転可能性が半々）となる目安がこの数字だということである。

最後に頑張りがいのある数字を出しておこう。９月マーク模試とセンター自己採点の差をもとに算出した「第一志望校を貫徹した生徒の、追い込み期における得点の伸び率平均」は、なんと「●●点」だそうである！　もちろん平均だから、すでに750点近く取っている人がそんなに伸びるはずはないが、多くの諸君にはまだまだ伸びしろがあるということである。現在のデータに惑わされず、最後まで努力を続けることが大切だということが如実に分かる数字といえるだろう。